
寸鉄殺人“ペリルポイント”、麻帆良にて

蠅の魔王

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

寸鉄殺人“ペリルポイント”、麻帆良にて

【NNコード】

N8067Z

【作者名】

蠅の魔王

【あらすじ】

転生に興味があった少年は、神の悪ふざけで作ったサイトをクリックしてしまった。

神の娘という女神から授かつた、珍しいあるチート能力で半ば流れながら原作介入を開始する。
…という感じのテンプレです。

キャラ崩壊、原作破壊、ご都合主義、オリ主最強等が含まれます。

プロローグ（前書き）

転生に興味があった少年は、神の悪ふざけで作ったサイトをクリックしてしまった。

神の娘という女神から授かつた、珍しいあるチート能力で半ば流れながら原作介入を開始する。

…という感じのテンプレです。

キャラ崩壊、原作破壊、ご都合主義、オリ主最強等が含まれます。

プロローグ

「いつも、皆さんおはようばんちわ。

あれ？声が小さいぞ？ さあもつ一度、おはこんばんちわ～！～え？ふざけたくも、もとい現実逃避したくなりますよ。

だつて、真っ白い空間にいつのまにかいて、目の前に土下座する爺ジジイと頭下げてる美人がいるんですよ。

はて、なんでこんな事になつてゐるやう、といあえず、布団に潜つたのは覚えているんですよ。

では、原因は寝る前？ 少し思い返してみよつ。

つ、その前に自己紹介を。

どうも俺はアニメ、漫画、ラノベが大好きなオタク少年の高校生、葵 翔と申します。

……言つてて空しくなるね、こりや。

まあ、気を取り直して、確か寝る前は口課の一^じ次創作漁りしてて……あ！？ もしかしてあの怪しいサイトか？

（回想）

「ふ～、新作はなし、田舎らしい作品の更新も確認済みつと。」

そう言いながら俺はパソコンの電源を落とそうとする。

すると、勝手に新しいウインドウが開き、どう見ても個人サイト見

たいのが出てくる。

「む？ 何々…【転生しゅみれーたー】って片仮名にしてたわよ。」
何や？ “転生後の姿” やり “欲しいチート能力” やり書いてある
な…

ん？ 転生先はランダムです。能力の数もこのサイトを開いた際、ランダムで決まります。…と。

「凝つてんなー、てか俺能力一個かよ。運悪いなー。」

ふむ、恐らく悪ふざけだと思つが… たとえ今死んでも親は死んでて、
友達もいない。悔いはないな。
てか、寂しいな俺。まあいいか。

「ふむふむ、まず容姿は…『境界線上のホライゾンのトゥーサン・
ネシンバラ』、と」

あいつ、結構好きなんだよなー 中一だけど。イケメンだけど。嫁持
ちだけど。

「能力は…普通『王の財宝』とか『無限の剣製』とか『直死の魔眼』
だろうけど…」

普通では面白くないーーこーはネタで行つてみるか…

「『寸鉄殺人』、と」
ペコルボイン

いや、良くなー？ なんたつて “零崎最強の男” の一つ名だよ。
それに、一つ名を入れれば、身体能力とかも手に入りそうだし…。

「んじや、『決定』と。」

『決定』の部分をクリックすると、勝手にパソコンの電源が落ちる。
こりや、期待できるかも。

そうして俺は布団に潜るのだった。

（回想 終わり）

……本当だつたのかあ……。

と。んじや、この爺と別嬪さんは

「あの……、説明お願ひできますか。」

「そう聞くと女人人が早口で説明してくれた。

「本当、すいませんでした。何か家の馬鹿親爺が最近流行つてゐるからって適当に見つけたあなたを殺して漫画の世界に転生させようとしたんです……。あたしが見つけた時には、既にあなたを殺して、輪廻の輪から絶対神権限で魂をここに持つてきてしまつて……。」

「

この爺、絶対神か……てか、流行つてんのかよ、一次転生。

「あの……何か……すいませんでした……」
てかこの爺泣いてるし。やはり女は強し、か。

「あの、顔上げてください。別に怒つてないんで。」
逆に嬉しいよ、転生できるし、美人さんと会えたし。

「／＼ま。」

あれ、女神さん顔赤くしてんだけど……え、もしかして
「すいません。一応神なので……ありがとうございます。／＼／＼
＼＼＼＼！ナンテコツタ。

「／＼／＼あの……それで、もつ転生するしかないのですが……
大丈夫ですか？」

「ああ、大丈夫です。やはり、あの質問の内容で？」

「はい、もつすでにコレが扉ゲートを開いてしまつていて……私はコレほど権限がないので……」

「うわ、コレ扱いだよ、この爺。

「あの……何か……すいませんでした……」

「てか、ずっと言い続けてないか？田が虚ろだし……。

まあ、とりあえず、あの扉ゲートを通ればいいのだろう。

「あの、それじゃあ行ってきます。」

「はい。お気ヒミツをつけて。私の権限でできる分だけオマケしておきま
すので。」

その言葉を背中ヒミツに受けながら、俺は扉ゲートをくぐり、くぐった瞬間、意
識を失つたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8067z/>

寸鉄殺人“ペリルポイント”、麻帆良にて

2011年12月25日20時54分発行